

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	浅井由佳
論文審査担当者	主査 中沢洋三 副査 駒津光久・関島良樹
論文題目	Associations of Autism Spectrum Quotient and Personality Profiles with Eating Behaviors in Patients with Anorexia Nervosa and in a Non-clinical Population (神経性やせ症と健常群における摂食態度と自閉症スペクトラム指数およびパーソナリティプロフィールの関連)
(論文の内容の要旨)	<p>【背景】神経性やせ症は、持続性のカロリー摂取制限、体重増加や肥満になることへの強い恐怖または体重増加を阻害する行動の持続、体重や体型に関する自己認識の障害、の3つの特徴をもつ摂食障害である。神経性やせ症の患者は、特徴的なパーソナリティプロフィールや自閉傾向を持つことが報告されているが、その特性が病前から存在するかはわかっていない。</p> <p>【目的と方法】本研究の目的は、1) 神経性やせ症のパーソナリティプロフィールおよび自閉傾向を調査すること、2) 健常群の自閉傾向およびパーソナリティプロフィールが摂食態度に与える影響を調べることである。神経性やせ症 22 名、健常女性 94 名を対象に摂食態度調査票、気質性格検査、自閉症スペクトラム指数を用いて評価を行った。</p> <p>【結果】神経性やせ症では、先行研究と同様に気質性格検査において損害回避の高さ ($P<0.001$) を認め、新奇性探究 ($P=0.006$)、報酬依存 ($P=0.009$)、自己志向性 ($P<0.001$) の項目では得点が低かった。自閉症スペクトラム指数は健常群と比較して神経性やせ症で有意に高値であった ($P<0.001$)。さらに、健常群において、神経性やせ症に類似したパーソナリティプロフィールや自閉症スペクトラム指数の高値が、制限型の摂食態度と関連することが明らかとなった。</p> <p>【結論】神経性やせ症の自閉傾向およびパーソナリティプロフィールは、病前から摂食態度に関連しており、神経性やせ症を発症する危険因子となる可能性が示唆された。今後、縦断的な研究による検証が必要であるが、神経性やせ症の危険因子を明らかにすることは、リスクが高い者を対象とした、より効果的な予防活動を行うための手助けとなり得る。</p>